

平成 22 年度

湘南の宙と風

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472000577	事業の開始年月日	平成14年5月1日
		指定年月日	平成14年5月1日
法人名	有限会社 花企画		
事業所名	グループホーム湘南の宙と風		
所在地	(254-0013)		
	神奈川県平塚市田村5-3-6		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	17名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成22年9月11日	評価結果 市町村受理日	平成22年11月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・一人ひとりの高齢者が、地域の住民としての生活に近づけるよう、日常生活の工夫や、現機能を出来る限り活かして生活できるよう、役割分担に工夫をして行く。これは、住居である建物の構造を活かしていくことにも繋がっている。</p> <p>・心身共の健康を維持する為に、健康は「食から」をモットーに旬の食材を使用した手作りの食事の提供を、栄養士と相談しながら、出来るだけ入居者の好みの食事が提供できるよう工夫している。又、健康管理に留意し、身体や脳を動かし現機能を維持できるよう工夫している。</p> <p>・医療との連携も密に行い、早期発見・治療を心がけ、職員の医療的知識も高めていく努力をしている。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年10月13日	評価機関 評価決定日	平成22年11月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><事業所の優れている点> ◇医療連携体制加算の指定を受けており、主治医や訪問介護ステーションの看護師が健康管理に努め、訪問診療や医療相談に応じ、24時間安心して介護を受けられる体制となっている。家族には、2か月ごとに「はな通信」で毎日の利用者の生活状況を報告し、主治医の「受診記録」を同封して医療面の報告も行っている。 ◇運営推進会議は概ね2か月ごとに開催し、運営状況、行事計画、防災・避難訓練を報告して意見交換を行い、地域の理解と支援が得られるように努めている。 ◇職員の人材育成を重視し、内外の研修会に参加して、資格の取得を奨励し、資格取得者には、待遇面でも優遇してスキルアップを図っている。</p> <p><事業所が工夫している点> ◇3階に居室がある当事業所では、歩行訓練のために階段に数字を貼り、利用者の昇降時の機能訓練に活用して、認知症の進行予防に役立てるよう工夫している。 ◇毎月平塚市生活相談員が来訪し、利用者の話し相手になり、看護専門学校や福祉専門学校の実習生も受け入れている。納涼祭を開催し、地域の方と一緒にそうめん流しやバーベキューを行い、また、桜見物や家族も参加した箱根への日帰りバスハイクの外出も楽しんでいる。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	湘南の宙と風
ユニット名	湘南の風

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

湘南の宙と風

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当社の理念に基づき、その理念を共有している。理念は、各事務所に掲示し、1年に2回の内部研修で、理念を紐解き、理解を深め、実践につなげている。	<ul style="list-style-type: none"> ・理念は、開設当初に運営法人の代表者が思いを込めて作成し、事務室と3階の職員室に掲示している。 ・管理者が、新入職員の研修時や職員会議で理念を説明して理解を深め、その具現化に努めている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域がら困難性はあるものの、建物の一部の住民との日常的な挨拶や、運営推進会議を活用させて頂き、施設の理解を深めていたり、ホーム行事への招待等交流が出来るよう努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の道路清掃や夏祭りの神輿見物、だんご焼きなどの地域行事に参加している。 ・利用者は、ボランティアのコーラス、アコーディオンやオカリナ演奏を聞き、近隣の理容店を利用するなど地域とのふれあいを大切にしている。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に特別な事は行っていないが、地域の方からの相談や、問いかけがあった場合には、詳しく説明できるようにしている。また、ボランティアの募集をしたりし、外部の方が施設内に入り、認知症の方を理解していただけるよう説明している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の委員の方には、入居者の家族も含め、職員が行っているサービスや施設の事業を客観的に判断できるので、ヒヤリハットの報告や、行事報告、入居者の動向等を報告しながら意見を頂き、職員に持ち帰っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は概ね2か月ごとに開催している。会議では事業所の運営内容や行事、防災訓練の内容などを説明し、意見交換を行っている。 ・出席者から、防災頭巾の着用や「火事だ」をもっと大声で叫ぶようアドバイスを得て実践している。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課とは、分からない事を聞いたり、助言を頂いている。又、生活保護の入居者の方もいられるので、推進会議に参加いただいたりと、それなりに協力関係は保てていると思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は、市役所介護保険課や高齢福祉課に機会ある毎に出向いて、運営や現場の実情、業務上の問題点を報告し、指導と助言を仰いでいる。 ・遠出に向けて、市の観光課に、コスモス畑の見頃の時期や安全場所の相談もしている。 	

湘南の宙と風

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては、年2回の内部研修で、内容の説明等を行い、周知し身体拘束をしないケアを心がけている。	・今年の6月、職員に身体拘束防止マニュアルを正しく理解するための勉強会を行い、身体拘束をしないケアに努めている。 ・玄関は、交通量の多い国道に面しているため、防犯上と安全面を考慮し、家族の了解を得て施錠している。	・玄関は施錠されていますが、職員による見守り、また設備面などの配慮で、可能な限り施錠しない方向で検討されることが期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法は、職員が新人の時、新人内部研修で、法の説明と、防止の理由を説明している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用を実施している入居者がいられる為、制度は知っているが、詳細まで理解している職員は少ない。管理者は制度の利用の手続き等の経験もあり、活用できる方には活用を推進して行きたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、重要事項等説明を行い、不安や疑問について質問が出来るよう時間も十分設け説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回、家族との懇談会を設け、説明、質疑を行っている。今年度はアンケートも実施し、家族等の意見を伺った。運営推進会議でも、家族の意見を伺っている。利用者については、日常的に気持ちを聞くよう職員に促している。	・家族には、運営推進会議や来訪時に利用者の生活状況を説明し、意見や要望を聞いて運営に反映している。 ・今年5月、家族にアンケート調査（運営面、職員の接遇、外出・外食支援、医療面等）を行い、結果を分析して課題の改善に努めている。	

湘南の宙と風

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で意見を聞いたり、正職員会議でも聞いている。日常的にも職員との会話を多く出来るよう努めている。	・管理者は毎月の会議や勉強会、ケア会議で日常業務に関する職員の要望や意見を聞き、業務に反映している。 ・法人代表者が会議に参加して要望を聞き、事業に反映している。利用者のケア記録用紙を統一し改善した事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	終業規則の整備、給与規定の整備、人事制度の整備等も含め、職員のモチベーションを高める為の整備をおこなっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格が無く、就業している職員がいるので、慣れて余裕が出てきた職員には、ヘルパーの資格を取る気持ちがあるか聞いてみたり、適切な外部研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市内にグループホームの連絡会があるので、研修等も含め、参加出来るよう機会を設けている。交換研修等の交流もおこなっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接等含め、利用者とのコミュニケーションを大切にしている。グループホームでの生活をどんなものにしたいか、何う事もある。		

湘南の宙と風

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族同士の関係や、家族の希望等伺い、介護計画にも活かせるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や利用者の気持ちを十分に伺い、入居日を決めたり、支援の方法を検討したり、支援の方法を家族に確認するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はご自分で行って頂き、できない事の支援を行うよう介護計画を策定している。又、役割を決め、各自が自信を持って出来るよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居しても、家族の役割は役割として、家族に理解して頂けるよう、入居前に説明している。特に家族でしかできない事を大切にしてもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会にはいつでも来られよう、特に時間を設けず面会者が来やすいようにしている。特に家族からの制限が無ければ、誰でも面会、外出が出来るようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は、市の七夕祭りなど昔なじみの行事見物に出掛けている。 ・来訪した友人と歓談したり、入居前の住まいや家族の墓参に行く利用者もいる。 ・年賀状の返信に職員が手伝い、一緒にポストに行き投函することもある。 	

湘南の宙と風

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングやダイニングを有効に活用し、行きたい場所でのくつろぎ、話したい人との交流が自由に持てるよう、支援している。孤立しやすい利用者に対しては、職員が中に入り、交流が持てる様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙を出したり、相談したい思いのある家族には、気軽に相談に乗れるよう伝えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的にご本人の思いは確認する事が多い。伝えられない利用者には、日頃からの行動や言葉の中から、考えおこなってみている。	・職員は日常の行動や会話の中から意向を汲みとるように努めている。 ・意向を自分から伝えにくい方には、入浴時の寛いだ時間帯に話を聞いたり、買ってきて欲しいものをメモ書きしてもらったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にもご本人や家族に聞いたりするほか、入居後も日常的な会話の中から、聞く事が出来る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前にご本人や家族から聞いたり、入居後は、生活ぶりから判断する事もある。又、試みとして残存能力等を知る事により、様々なことをおこなってみることもある。		

湘南の宙と風

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中から、どんな支援がより効果的であったり、利用者の安らぎであったり、家族の望むような利用者像であるかを確認しながら、介護計画を立てる。立案後は、家族に説明しながら、修正を加える事がある。	・職員は、日頃の気付きを記録するとともに、アセスメントを基に利用者や家族の意向、主治医・看護師の所見を斟酌しケース会議で話し合い、家族の同意を得て介護計画を作成している。 ・介護計画は、通常6か月ごとに、現状に即したものに直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌（処遇日誌）、個人毎の生活記録、受診記録等に記録している。特に緊急や特別な無い様については、連絡ボードにより伝え、共有している。個別記録は介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	環境や職員の勤務時間にとられる事が出来るだけ少ないようにはしているが、多様なニーズに対応出来るよう努めている。ケース会議等で話し合い、対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民として生活が継続出来る様に、地域にある、商業施設の利用や、理美容院の利用、公園の利用等行っている。地域の行事にも一部参加させていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望する医療機関があれば、入居しても継続して通院をして頂いている。かかりつけ医についても、様々な情報を共有したり、医療知識を指導していただいたりと、交流を深めるよう努めている。	・本人や家族の希望により、かかりつけ医による医療を継続して受診できるように支援している。家族が都合のつかない場合は、職員が通院に付き添っている。 ・医療情報は個人別ファイルに記録して、情報の共有に努めている。	

湘南の宙と風

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康面での看護師の需要は大きく、又医療知識や、疾病時の指示により、受診を決めたり、指導を頂いたり大きな役割が果たされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、医療福祉相談室との連携は欠かさず行い、様々な出来事にも即応しやすいよう関係を保っている。退院が間近になれば、医師や看護師との面談を行い、ホームに戻ってからの生活についての意見を必ず伺っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、どうしたいのか入居と同時に家族に確認している。又、終末期には時と場合によっては、ターミナルケアが可能な場合と不可能な場合があるので、それらを含め、説明している。	・職員はターミナルケアに関する勉強会を行い、事業所としては日常的に医療が必要でない限り、対応する方針である。 ・急変時は主治医・看護師、家族・職員が話し合い、利用者にとって最善の方法を採る方針を共有して、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や、事故発生時の対応は行っているが、すべての職員が出来るかといえ、全職員は困難である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練は、年6回行っているが、確実に身に付けているかと言うと、少し難しい。地域との協力体制は、避難時の利用者の安全上の保護は何とかできるかも知れないと、近所の方からは伝えられた。生命にもかかわることなので、文書に残す事は困難性がある。	・防災・避難訓練は火災と震災を想定して実施している。 ・運営推進会議では、非常時に近隣の店舗を避難場所として利用者に使わせてもらえるよう協力を依頼している。 ・非常用食料と飲料水を、3日分備蓄している。	

湘南の宙と風

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人を人として尊厳のある生活の提供に心がけている。プライバシーについても、損ねないような声掛けや、目の届かない場所での説明、介護等を心がけている。	・職員は入職時に守秘義務に関する誓約書を提出している。 ・管理者は、職員会議で利用者の尊厳を大切にするように説明し、職員は日頃よりプライバシーを損ねないように言葉使いに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	殆ど行動や言葉の制限をする事のない、生活の提供を心がけている。選択が出来るよう、より具体的な内容を示し、自己決定が出来るよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や、入浴時間といったどうしても決めなければならない事は決まっているが、他は自由に過せるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの石鹸や、化粧、香水等の支援を行ったり、出掛けるときの服装も自分で選択して頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくりは入居者の希望を聞きながら作成している。誕生日にはその対象者の食べたい食事内容にしている。外食も、利用者の意見を聞き、食べたい物のあるレストランに出掛けている。準備や片付けも行ってもらっている。	・利用者は食前・食後のテーブル拭き、食器拭きを職員と一緒にやっている。 ・食事は、利用者の好きなメニューを提供するように努め、調理を担当した職員が利用者と同じテーブルで食事をしながら、食事介助を行っている。	

湘南の宙と風

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は利用者と職員で作成するが、摂取した物が適切であるか、栄養士が計算し、年齢、性別、体重、疾病、身体状況等加味して、指導している。又、好みの物が摂取しやすいよう献立にも工夫し、嚥下等にも配慮し、形態にも工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の生活習慣により、毎食後の口腔ケアの実施が困難な場合もあるが、口腔内のすすぎやうがい、歯ブラシ等一人ひとりに合わせ支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を作成し、一人ひとりの排泄状況を把握している。トイレ誘導を行うが、トイレを拒否する利用者もいれば、適切な誘導による排泄の困難な場合もある。下着の工夫を検討して行きたい。	・職員はチェック表で利用者の排泄パターンを把握して、トイレへの誘導を行い、自立に向けて支援している。現在、利用者の9割がリハビリパンツとパットを使用しており、布パンツへの移行に取り組んでいる。夜間ポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物では、寒天ゼリーにより繊維を取ったり、同時に水分補給にもなるので、常時いつでも摂取出来る様になっている。食事の工夫も行っている。また、オリゴ糖の使用により排便が促される事もある。出来るだけ、自然に排便できるよう工夫。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、希望すれば出来るよう、毎日沸かしている。利用者によっては、医師の指示で1日置き等あるが、夕食前に入浴が睡眠を誘うのに良いとの研修での学びがある為、実施している。入浴時間はゆっくり出来るよう心がけている。	・入浴は最低原則週3回とし、希望があれば心身の状態により、毎日でも入浴できるように支援している。 ・入浴をしたがらない方には、声かけや担当を変え、浴室までの誘導を工夫している。往診時、医師から声をかけて貰うこともある。	

湘南の宙と風

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡等、利用者の体力や、気分に応じて急速が取れるよう支援している。窓の開閉や、エアコン等の調節により、温度、湿度、風等快い状態の確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	疾病の理解も含め、薬の名前や量等にも気を配るよう伝えている。副作用や、飲み薬の変化が生じたときは、特に副作用の状況を把握できるよう伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好みや、能力に応じた役割を見つけ行っている。レクの時間には好みの事が出来るよう毎日内容を考え、楽しんで行えるよう実施している。気分転換では、気候の良い時の散歩、ドライブ等支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の行事の中で、季節に応じたドライブと外食を行っているが、行きたい場所や外食先は利用者を選択して頂いている。日常的な散歩も、ある程度希望に合わせている。家族参加も家族の希望で可能である。	・利用者は天候や体調、希望に応じて、交通量のある道路を避けて、近くの公園や買い物に出掛けている。 ・毎月、お弁当持参の花見や外食に出掛けている。年に1回は、日帰りバスハイクを催行し、家族へも参加を呼びかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族が了解し、持つ事は可能であるが現在希望者は不在である。		

湘南の宙と風

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が了解しいつでも電話が可能な場合は可能である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ビルの一部を利用している為、外部を感じる事は中々難しいが、光を感じる事は可能である。空調や空気清浄機の利用、シーリングファン活用等、居心地が良いよう工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> ・共用空間の装飾は「常に家庭と同じように」を念頭に、絵画やイベントの写真を飾り、落ち着いた温かみのある雰囲気而努力している。 ・職員と利用者が毎日掃除をしており、清潔で居心地よいリビングとなっている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに居場所が出来ていると思う。ダイニング、リビング、ホール等もそれぞれの思いで、一人になっている事も見受けられる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の荷物は今まで使用していたなじみの家具等を持参いただいている。食器も同様である。居室も家族とともに配置している。仏壇や、椅子、机等持参している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は備え付けのベット・クローゼット・エアコンカーテン以外は馴染みの家具や仏壇を持ち込み、独自の居心地よい部屋作りをしている。 ・利用者は職員と一緒に居室清掃を行っている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	在る物の中で出来るだけわかりやすいように心がけている。リビングやダイニングが見渡し安い、何処に誰がいるのか、利用者にも見やすいというようになっている。		

湘南の宙と風

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当社の理念に基づき、その理念を共有している。理念は、各事務所に掲示し、1年に2階の内部研修で、理念を紐解き、理解を深め、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域がら困難性はあるものの、建物の一部の住民との日常的な挨拶や、運営推進会議を活用させて頂き、施設の理解を深めていったり、ホーム行事への招待等交流が出来るよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に特別な事は行っていないが、地域の方からの相談や、問いかけがあった場合には、詳しく説明できるようにしている。また、ボランティアの募集をしたりし、外部の方が施設内に入り、認知症の方を理解していただけるよう説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の委員の方には、入居者の家族も含め、職員が行っているサービスや施設の事業を客観的に判断できるので、ヒヤリハットの報告や、行事報告、入居者の動向等を報告しながら意見を頂き、職員に持ち帰っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課とは、分からない事を聞いたり、助言を頂いている。又、生活保護の入居者の方もいられるので、推進会議に参加いただいたり、それなりに協力関係は保てていると思う。		

湘南の宙と風

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては、年2回の内部研修で、内容の説明等を行い、周知し身体拘束をしないケアを心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法は、職員が新人の時、新人内部研修で、法の説明と、防止の理由を説明している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用を実施している入居者がいられる為、制度は知っているが、詳細まで理解している職員は少ない。管理者は制度の利用の手続き等の景観もあり、活用できる方には活用を推進して行きたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、重要事項等説明を行い、不安や疑問について質問が出来るよう時間も十分設け説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回、家族との懇談会を設け、説明、質疑を行っている。今年度はアンケートも実施し、家族等の意見を伺った。運営推進会議でも、家族の意見を伺っている。利用者については、日常的に気持ちを聞くよう職員に促している。		

湘南の宙と風

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で意見を聞いたり、正職員会議でも聞いている。日常的にも職員との会話を多く出来るよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	終業規則の整備、給与規定の整備、人事制度の整備等も含め、職員のモチベーションを高める為の整備をおこなっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格が無く、就業している職員がいるので、慣れて余裕が出てきた職員には、ヘルパーの資格を取る気持ちがあるか聞いてみたり、適切な外部研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市内にグループホームの連絡会が在るので、研修等も含め、参加出来るよう機会を設けている。交換研修等の交流もおこなっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接等含め、利用者とのコミュニケーションを大切にしている。グループホームでの生活をどんなものにしたいか、伺う事もある。		

湘南の宙と風

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族同士の関係や、家族の希望等伺い、介護計画にも活かせるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や利用者の気持ちを十分に伺い、入居日を決めたり、支援の方法を検討したり、支援の方法を家族に確認するよう勤めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はご自分で行って頂き、でき無い事の支援を行うよう介護計画を策定している。又、役割を決め、各自が自信を持って出来るよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居しても、家族の役割は役割として、家族に理解して頂けるよう、入居前に説明している。特に家族でしかでき無い事を大切にしてもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会にはいつでも来られよう、特に時間を設けず面会者が来やすいようにしている。特に家族からの制限が無ければ、誰でも面会、外出が出来るようにしている。		

湘南の宙と風

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングやダイニングを有効に活用し、行きたい場所でのくつろぎ、話したい人との交流が自由に持てるよう、支援している。孤立しやすい利用者に対しては、職員が中に入り、交流が持てる様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙を出したり、相談したい思いのある家族には、気軽に相談に乗れるよう伝えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的にご本人の思いは確認する事が多い。伝えられない利用者には、日頃からの行動や言葉の中から、考えおこなっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にもご本人や家族に聞いたりするほか、入居後も日常的な会話の中から、聞く事が出来る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前にご本人や家族から聞いたり、入居後は、生活ぶりから判断する事もある。又、試みとして残存能力等を知る事により、様々なことをおこなっている。		

湘南の宙と風

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中から、どんな支援がより効果的であったり、利用者の安らぎであったり、家族の望むような利用者像であるかを確認しながら、介護計画を立てる。立案後は、家族に説明しながら、修正を加える事がある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌（処遇日誌）、個人毎の生活記録、受診記録等に記録している。特に緊急や特別な無い様については、連絡ボードにより伝え、共有している。個別記録は介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	環境や職員の勤務時間にとらわれる事が出来るだけ少ないようにはしているが、多様なニーズに対応出来るよう努めている。ケース会議等で話し合い、対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民として生活が継続出来る様に、地域にある、商業施設の利用や、理美容院の利用、公園の利用等行っている。地域の行事にも一部参加させていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望する医療機関があれば、入居しても継続して通院をして頂いている。かかりつけ医についても、様々な情報を共有したり、医療知識を指導していただいたりと、交流を深めるよう努めている。		

湘南の宙と風

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康面での看護師の需要は大きく、又医療知識や、疾病時の指示により、受診を決め足り、指導を頂いたり大きな役割が果たされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、医療福祉相談室との連携は欠かさず行き、様々な出来事にも即応しやすいよう関係を保っている。退院が間近になれば、医師や看護師との面談を行い、ホームに戻ってからの生活についての意見を必ず伺っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、どうしたいのか入居と同時に家族に確認している。又、終末期には時と場合によっては、ターミナルケアが可能な場合と不可能な場合があるので、それらを含め、説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や、事故発生時の対応は行っているが、すべての職員が出来るかといえば、全職員は困難である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練は、年6回行っているが、確実に身に付けているかと言うと、少し難しい。地域との協力体制は、避難時の利用者の安全上の保護は何とかできるかも知れないと、近所の方からは伝えられた。声明にもかかわる事なので、文書に残す事は困難性がある。		

湘南の宙と風

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人を人として尊厳のある生活の提供に心がけている。プライバシーについても、損ねないような声掛けや、目の届かない場所での説明、介護等を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	殆ど行動や言葉の制限をする事のない、生活の提供を心がけている。選択が出来るよう、より具体的な内容を示し、自己決定が出来るよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や、入浴時間といったどうしても決めなければならない事は決まっているが、他は自由に過せるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの石鹸や、化粧、香水等の支援を行ったり、出掛けるときの服装もご自分で選択して頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくりは入居者の希望を聞きながら作成している。誕生日にはその対象者の食べたい食事内容にしている。外食も、利用者の意見を聞き、食べたい物のあるレストランに出掛けている。準備や片付けも行ってもらっている。		

湘南の宙と風

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は利用者と職員で作成するが、摂取した物が適切であるか、栄養士が計算し、年齢、性別、体重、疾病、身体状況等加味して、指導している。又、好みの物が摂取しやすいよう献立にも工夫し、嚥下等にも配慮し、形態にも工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の生活習慣により、毎食後の口腔ケアの実施が困難な場合もあるが、口腔内のすすぎやうがい、歯ブラシ等一人ひとりに合わせ支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を作成し、一人ひとりの排泄状況を把握している。トイレ誘導を行うが、トイレを拒否する利用者もいられ、適切な誘導による排泄の困難な場合もある。下着の工夫を検討して行きたい。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物では、寒天ゼリーにより繊維を取ったり、同時に水分補給にもなるので、常時いつでも摂取出来る様になっている。食事の工夫も行っている。また、オリゴ糖の使用により排便が促される事もある。出来るだけ、自然に排便できるよう工夫。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、希望すれば出来るよう、毎日沸かしている。利用者によっては、医師の指示で1日置き等あるが、夕食前の入浴が睡眠を誘うのに良いとの研修での学びがある為、実施している。入浴時間はゆっくり出来るよう心がけている。		

湘南の宙と風

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡等、利用者の体力や、気分に応じて急速が取れるよう支援している。窓の開閉や、エアコン等の調節により、温度、湿度、風等快い状態の確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	疾病の理解も含め、薬の名前や量等にも気を配るよう伝えている。副作用や、飲み薬の変化が生じたときは、特に副作用の状況を把握できるよう伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好みや、能力に応じた役割を見つけ行っている。レクの時間には好みの事が出来るよう毎日内容を考え、楽しんで行えるよう実施している。気分転換では、気候の良い時の散歩、ドライブ等支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の行事の中で、季節に応じたドライブと外食を行っているが、行きたい場所や外食先は利用者を選択して頂いている。日常的な散歩も、ある程度希望に合わせている。家族参加も家族の希望で可能である。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族が了解し、持つ事は可能であるが現在希望者は不在である。		

湘南の宙と風

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が了解しいつでも電話が可能な場合は可能である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ビルの一部を利用している為、外部を感じる事は中々難しいが、光を感じる事は可能である。空調や空気清浄機の利用、シーリングファンの活用等、居心地が良いよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに居場所が出来ていると思う。ダイニング、リビング、ホール等もそれぞれの思いで、一人になっている事も見受けられる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の荷物は今まで使用していたなじみの家具等を持参いただいている。食器も同様である。居室も家族とともに配置している。仏壇や、椅子、机等持参している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	在る物の中で出来るだけわかりやすいように心がけている。リビングやダイニングが見渡し安い、何処に誰がいるのか、利用者にも見やすいというようになっている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム湘南の宙と風

作成日 平成22年11月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	43	個々の排泄状況を観察し、その方に合わせて排泄支援を行っているが、排泄面自立に向けての具体的な取組み方法は確立していない。	ご入居者全員に対し、同時進行は困難であるので、排泄感のある方トイレ誘導に拒否感の少ない方等に限定して、トイレ誘導を実施し、排泄状態をしっかり把握し、トイレでの排泄に繋げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・記録様式を活用し、ご入居者の排泄状況把握に努める。 ・トイレ通いが、苦痛にならないような誘導方法の検討。 ・入居者の目標になるような支援方法の確立。 	6か月～1年
2	6	2階事務所の入居者書類等の外部流出が無いように、1階玄関の施錠を行っている。2階事務所では、入居者のための書類等の作成を行っているが、緊急呼び出しなどで、書類を所定の保管場所(施錠可)に保管する間も無い状況も起こりうる。施錠のない状態を確保できる可能性を考察していく。	玄関の施錠をしないで済むような状況の確保。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者が内側から自ら鍵を開けられる鍵の設置(済み) ・入居者に対する見守りはほぼ実施できているが、更に見守りの実施を強化していく。 ・緊急時は、書類等直ぐに収納し、鍵を掛けられるような保管場所の確保をする。 ・外部からの侵入者が無いよう留意する。(見回り等であるが、人員によって困難な日もある) ・近い将来、施錠しなくても済むよう上記計画を実施して行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・済み ・緊急 ・済み ・出来る日直ぐに ・3か月～
3					